様式１

|  |  |
| --- | --- |
| 登録番号 |  |

遺伝子組換え生物等使用等承認申請書（新規・変更）

　　　年　　月　　日

　　宇都宮大学長　殿

実験責任者（所属）

（氏名）

　遺伝子組換え生物等の第二種使用等をする間に執る拡散防止措置の確認・承認を受けたいので，次のとおり申請します。実験の実施に当たっては法令等、本学の組換えＤＮＡ実験安全管理規程を遵守します。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 第二種使用等の名称 |  | | | |
| 第二種使用等の種類  （該当項目に○） |  | 微生物使用実験 |  | 植物使用実験（植物作成実験） |
|  | 大量培養実験 |  | 植物使用実験（植物接種実験） |
|  | 動物使用実験（動物作成実験） |  | 植物使用実験（きのこ作成実験） |
|  | 動物使用実験（動物接種実験） |  | 細胞融合実験 |
| 実験実施予定期間  （５年以内） | 年　　　月　から　　　　年　　　月まで | | | |
| 使用場所 |  | | | |
| 第二種使用等の目的 |  | | | |
| 第二種使用等の概要 |  | | | |
| 遺伝子組換え生物等を  不活化するための措置 |  | | | |
| その他参考となる事項 |  | | | |

拡散防止措置

（　）本申請は、機関実験に相当し、拡散防止措置は以下が適当と判断しました。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 微生物使用実験 | （　）P1 | （　）P2 | （　）P3 |  |
| 大量培養実験 | （　）LSC | （　）LS1 | （　）LS2 |  |
| 動物使用実験 | （　）P1A | （　）P2A | （　）P3A | （　）特定飼育区画 |
| 植物使用実験 | （　）P1P | （　）P2P | （　）P3P | （　）特定網室 |

（　）大臣確認実験と判断しました。その理由は下記のとおりです。

|  |
| --- |
| （理由） |

ゲノム編集

（　）本申請は、ゲノム編集を含みます。（表２に記入）

|  |
| --- |
| 安全主任者確認欄 |
| 本申請の上記拡散防止措置は適切であると判断しました。  安全主任者 氏名 |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 表１：遺伝子組み換え生物等及び拡散防止措置の一覧表 | | | | | | |
| 核酸供与体 | 供与核酸 | ベクター | 宿主等 | 保有動植物等 | 拡散防止  措置の区分 | 備　　考 |
|  |  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 表２：ゲノム編集を用いた遺伝子組換え生物等及び拡散防止措置の一覧表 | | | | |
| 技術 | プロダクト | 対象生物種 | 拡散防止  措置の区分 | 備　　考 |
| □ CRISPR/Cas9注１  □ TALEN注２  □ ZFN (Zinc Finger Nucleases)  □ その他（　　　　　　） | ゲノム編集により作製した生物は、  □ 外来遺伝子を含まない  □ 外来遺伝子を含む注３ |  |  |  |

注１　Clustered Regularly Interspaced Short Palindromic Repeats / CRISPR Associated Protein 9

注２　Transcription Activator Like Effecter Nucleases

注３　対象生物種由来のDNA配列をゲノムの別の場所に組換える場合も含む

遺伝子組換え生物等の特性

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 核酸供与体の特性 |  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能がない。 |
|  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能があり得る。（この場合は説明） |
| 供与核酸の特性 |  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能を宿主に付与する可能性がない。 |
|  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能を宿主に付与する可能性がある。  （この場合は説明） |
| ベクター等の特性 |  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能を宿主に付与する可能性がない。 |
|  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能を宿主に付与する可能性がある。  （この場合は説明） |
| 宿主等の特性 |  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能がない。 |
|  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能があり得る。（この場合は説明） |
| 遺伝子組換え生物等の特性  （宿主等との相違を含む） |  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能がない。 |
|  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能があり得る。（この場合は説明） |
| 遺伝子組換え生物等を保存  している動物、植物又は  細胞等の特性 |  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能がない。 |
|  | 哺乳動物または鳥に対する病原性や毒素産生能があり得る。（この場合は説明） |